

## 実践報告

## 札幌市立山鼻小学校

### (1) 研究内容

研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくり等の研究」

○子ども同士が日常的に男女混合で活動し、互いに「さん」で呼び合うようにすることなどで、子どもが互いに尊重し、支え合いながら共によりよく生きようとする態度を育む。また、性差に関係なく、他人を思いやる心や生命を尊重する心などの「豊かな心」の育成を図る。

### (2) 実践の内容

【実践①】日常における性別によらない名簿の取組について

○ねらい

日々の学校生活の中で、互いに「さん」で呼んだり男女混合で活動したりすることで、子どもが互いの良さを尊重し、支え合いながら共によりよく生きようとする態度を育む。

○取組内容

- ・男女が混ざって行動することが自然な状況となるよう、学校生活の中で男女混合による様々な取組を行った。
  - ① 名簿…健康診断簿で形式が決まっているもの以外は、混合での五十音順とした。
    - ・児童名簿 ・出席簿 ・クラス名簿 ・健康観察簿 ・指導要録関係 など
  - ② 並び方…背の順・名簿順・席順など、あえて男女に分ける必要があるもの以外は、全て混合とした。
- ・性差による呼び方（～くん、～ちゃん）をやめ、男女関係なく「～さんの考えは…」と、丁寧に「さん」を付けて呼ぶことで、「男子だから」「女子だから」ではなく、一人一人を尊重した取組になるよう継続して取り組んだ。

【実践②】教科や特別活動等で育てる取組

○ねらい

授業などで互いの良さを感じとり、仲間と支え合うなかで、自己を肯定的に受け止め、自分や他者を大切にする姿勢を育てる。

○取組内容

- ・道徳…互いを尊重し、よりよく生きる姿勢を育てる。

例) 3年「公平な態度で」→友達によって態度を変える主人公の姿を通して、分け隔てなく公平に接する大切さについて考え、思いを深めた。
- ・委員会、クラブ活動…男女の区別なく互いの良さを認め合い協力し、より良い活動にしていけることができるよう参画意識を育てた。
- ・学校行事…運動会や遠足、学習発表会など、グループ分けや役柄等を男女関係なく子ども一人一人に合った取組になるよう工夫していった。

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- 男女混合の取組を始めて、今年で4年目となる。「男子」「女子」とひとくくりにすることが少なくなったことで、教師も子どもも性差を強調して活動する場面が減ってきた。また、男女混合でいることが日常の風景となっている。
- 高学年でも男女関係なく活動する場面が増え、あえて「男女一緒に」ということを強調しなくても、子どもたち自身が一人一人の持ち味を大切にしながら活動を進めていくことができるようになってきている。
- 運動会のリレーなど、性差で分けて走るのではなく、「タイム」を基準として走ることで、子ども自身が納得して競技に臨むことができた。
- 教師も子どもも呼び方を「～さん」とすることで、優しい雰囲気となり、学習中のお互いの発言や日常のコミュニケーションを大切にする姿勢が身に付いてきた。



#### ② 課題

- 長く身に付いて来た「男子先、女子後」の呼び方や、「男子はこっち、女子は…」と性別でひとくくりにしてまとめてしまうといった習慣から抜け出せず、なかなか混合になじめないことがあるが、根気よく継続して取り組むことで根付いてくるので、短期間で結果を求めず、長期的に取り組むことが大切である。
- 男女混合になじまないものと混合にするものとの線引きを、教師間でしっかりと共有することが大切である。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- 名簿や並び方など、子どもの目に触れる部分をまとめて変えることで、違和感が少なく取り組むことができる。
- 「～さん」を付けて呼ぶ習慣が身に付くことで、「呼び捨て」が減り、お互いの考え方や行動なども尊重できるようになってくる。
- 今年度は、併せて取り組む予定だった「サッポロピリカコタン」を活用した取組は地震のためできなかったが、一人一人を大切にしていこうということでは、男女混合の取組とも共通するものがあるので、今後も継続していきたい。

